

南三陸 復興まちづくり通信

第67号 (令和2年1月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。



南三陸町震災復興祈念公園が一部開園！ 「祈りの丘」などで除幕式

南三陸町が志津川地区に整備を進めている震災復興祈念公園のうち、志津川湾を望む「祈りの丘」を含めた築山や「復興祈念のテラス」などが12月17日に一部開園となり、町長ら関係者が出席して除幕式が行われました。祈念公園は、八幡川を挟んでさんさん商店街の対岸の町有地6.3㍍を活用して、「追悼・継承・感謝そして未来を想像する場」として整備されます。

「祈りの丘」は公園西側の築山の頂上部に位置し、海拔20㍍の高台に犠牲者名簿を安置する石碑(=写真)が設置され、海に向かって手を合わせ、祈りを捧げる場所となっています。碑には公募から選ばれたメッセージ『いま、碧き海に祈る 愛するあなた 安らかなれと』が刻まれています。今後、整備エリアを拡げ、全体開園は今年の秋頃を予定しています。

震災犠牲者の鎮魂願い大仏建立 開眼法要

南三陸町の志津川湾を一望できる高台に、ミャンマー(旧ビルマ)から贈られた大仏が建立され11月25日、同国の僧侶が訪れて開眼法要が執り行われました。ミャンマー産の大理石で作られた仏像は台座を含めて高さが約5㍍。南三陸ホテル観洋にほど近い同社所有の「海の見える命の森」で行われた法要にはミャンマーの僧侶8人、寄贈した同国の総合商社「TOMOSADA」、阿部長商店の関係者など約80人が参列し、震災の犠牲者の霊を慰めました。



練習の成果を披露 志津川で高齢者芸能発表会

南三陸町高齢者芸能発表会（町老人クラブ連合会主催）が12月5日、ベイサイドアリーナ文化交流ホールで開かれました。町内の高齢者が歌や踊りなど日頃の練習の成果を披露しました。ステージには、30の演目に、個人や団体など約130人が出演。老人クラブや芸能サークルの仲間同士が舞踊やコーラス、体操などを生き生きと発表すると、来場したおよそ250人の観客から盛大な拍手と声援が送られました。



出会いと絆、思い出に感謝の交流会

震災直後から避難所、仮設住宅、さらに住宅再建後の現在も変わらず支援活動を継続している曹洞宗山形県第三宗務所ボランティア協議会のメンバーに感謝する会が11月18日、歌津泊浜の民宿「高倉荘」で開かれました。会には同協議会の庄司憲昭事務局長ら5人の和尚さんと歌津各地域のリーダー35人が参加。お酒を酌み交わしながら、思い出話をしたり近況を伝え合ったりしました。庄司局長は「来春にはまたお茶っこ会をしに来ます。それまでお元気で！」と話しました。



移動交流会で気仙沼大島と陸前高田を見学！

戸倉復興公営住宅入居者と近隣の住民が11月18日、モアイバスを利用して移動交流会を行いました。復興みなさん会が主催したもので、住民15人が参加。みなさん会のメンバーのガイドで、気仙沼大島と陸前高田を視察しました。4月に開通した気仙沼大橋を渡って訪れた大島では島内を一周。龍舞崎や亀山の頂上からの眺望を満喫（＝写真）しました。陸前高田では国営の追悼・祈念施設や津波伝承施設、道の駅、奇跡の一本松などを見学しました。



【あしがき】

先日、あるセミナーに参加する機会があった。分科会のテーマは「地域の作り方」。震災後、三陸地方で設立が増えているNPOのような新しい主体に加え、自治会・契約講といった住民組織や事業所、社会福祉協議会・行政なども一緒になって協議の場を持ち、山積する地域課題の解決に取り組む体制を作っていくことが大切との話であった。

年末に一部が開園した町の復興祈念公園も、今後次第に維持管理が困難になっていくであろう。公園に関わる人を増やし、ひざを交えて知恵を出しあうことで、一部の方に無理がかけられないよう、それぞれが役割を担いながら、町外に誇れる公園を維持していく。公園の全面開園までに、そのような枠組みを作っておくことが必要だと感じた。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrb@gmail.com

当会は今年度、みやぎ地域復興支援助成金（宮城県）、おらほのまちづくり支援事業補助金（南三陸町）、みやぎチャレンジプロジェクト助成金（宮城県共同募金会）の支援をいただき活動しています。